
第2回古賀市環境審議会生物多様性専門部会 議事録

- 1 期日 平成30年8月31日（金曜日）14時00分から16時00分まで
- 2 場所 古賀市役所 303会議室（第2庁舎3階）
- 3 出席委員（6名）

部会長	薛 孝夫	部会員	鬼倉 徳雄
部会員	柴田 幸次	部会員	中屋 允雄
部会員	水上 シゲ子	部会員	嶺井 久勝
- 4 欠席委員（1名）

部会員	崎村 泰道
-----	-------
- 5 オブザーバー（1名）

福岡県保健環境研究所環境生物課 課長	須田 隆一
※福岡県環境部自然環境課 岩崎高行課長：欠席	
- 6 事務局出席者職氏名

環境課長	智原 英樹	環境整備係長	船津 真里子
主任主事	吉澤 祥子		
- 7 議題等
 - ・前回の協議事項
 - ・生物多様性地域戦略について
- 8 配布資料

（事前配布）	次第
	資料1 前回の協議事項
	資料2 生物多様性地域戦略（案）について
	資料2-1 他自治体の生物多様性地域戦略について
	資料2-2 生物多様性地域戦略策定に係る高校生ワークショップでの意見

1. 開会

- ・部会員の半数以上の出席があることから、会議が成立したことを報告。
- ・協議中に希少種の生息場所や環境などが外部に知られてしまう可能性があることから、会議を非公開とすることについて部会員の承認を頂いた。

2. 部会長あいさつ

(薛部会長)

第1回目の専門部会では、キャッチフレーズの検討を行ったが、協議する中で、全体の構成を見てから改めて検討していこうということになった。また、“生きもの”という考え方についても様々な意見が出た。そういった意見を踏まえて、事務局が、戦略の4つのアクションとそれぞれの方向性、関連する施策の案を作成しておられるので、本日はその部分を十分に検討して、そのあとに将来像の表現についても再検討できればと思っている。よろしくご協議いただきたい。

3. 議題

(1) 前回の協議事項

- ・【資料1】に沿って、前回いただいた意見とその対応について事務局より説明。
- ・質疑・応答。
 - 部会長：こちらは事務局からの報告ということで、次の議事へ移らせていただく。

(2) 生物多様性地域戦略について

- ・【資料2】に沿って、生物多様性地域戦略の構成、検討の進め方、3章「古賀の戦略を立てる」部分の概要について事務局より説明。
- ・質疑・応答。
 - 部会長：まず、3章の概要についてのご意見をいただき、それも踏まえて将来像の検討にうつりたい。
4つのActionの構成については、問題はないか。
 - オブザーバー：生物多様性の保全、持続可能な利用、基盤の構築というのは、多くの戦略で盛り込まれている内容であり、骨格としてはわかりやすく、バランスもとれているように思う。
 - 部会員：【Action1. 生物多様性を知る】
自然からの恵み（生態系サービス）を受けているということ、どこかに記載できないか。
【Action2. 生物多様性を守る - 3. 環境負荷の低減】
私たちが生物多様性に影響を与えそうな負荷についてもう少し具体的に記載するといいいのではないか。

- 部 会 長 : 戦略の構成をすっきりさせるためには、“自然からの恵み”の内容については、コラムという方法で記載する方がいいのかもしれない。
“恵み”という表現は行政文書として使用しても問題ないか。
- 事 務 局 : 他の自治体においても、“恵み”という表現を使用している生物多様性地域戦略はあり、特に問題はないと考えている。
- 部 会 長 : 【Action1. 生物多様性を知る-2. 自然や生きものとふれあう場の充実】
森林体験や農業体験は「1. 環境教育・学習の推進」の施策の内容に似ているようにも感じるが。
- 部 会 員 : 施策については、色々な項目に関連しており、きっちり仕分けることは難しいだろう。「Action1. 生物多様性を知る」と「Action3. 生物多様性を活かす」の部分もかなり重複してくるのではないか。
魅力ある地域づくりは、自然観察会や学校教育なども大きく関係するだろう。様々な施策が相互にリンクし合うような意味合いの表現が入るといいかもしれない。
- オブザーバー : 【Action1. 生物多様性を知る-3. 調査分析・情報共有】
情報は“提供”や“発信”という表現の方がよいだろう。もし、「共有」という表現を残すとすれば、施策の中に、生きものマップの作成、WEBサイトの構築など、情報の共有化の取組があった方がいいのではないか。
- 部 会 員 : 【Action2. 生物多様性を守る】
施策の中に、希少種の保全について触れられていないように思う。「1. 生息・生育環境の保全・再生」や「2. 野生生物への対応」の部分にも含まれるといいだろう。
- 部 会 員 : 【Action2. 生物多様性を守る - 2. 野生生物への対応】
外来生物への対策については、対応というよりは管理をしていくことが重要視されてきているので、そういった表現の方がいいのではないか。
- 部 会 員 : 害獣も含む「野生生物との付き合い方」という表現にも違和感がある。
- 部 会 員 : 希少生物も含めて保全する施策を方向性の一つ目にし、被害を及ぼす生物（外来種・害獣）への対策を方向性の二つ目にするという整理にしてはどうか。
- 部 会 員 : 最近アナグマやアライグマ、ハクビシンによる農作物等への被害が大きい。昨年、あまりにも被害が大きいので、罠をしかけたところ、ハクビシンがかかった。
- オブザーバー : 【Action2. 生物多様性を守る - 4. 文化的資産の継承】
古賀の伝統作物というと、何かあるか。
- 部 会 員 : 1年を通して、みかんが収穫でき、種類も多い。古賀でできた品種であれば山見阪ネーブルもある。
- 部 会 員 : 「文化的資産」という表現ではなく、「地域資産」という表現をして、古賀特有の資産を守っていくという意味を持たせてもいいのかもしれない。
- 部 会 長 : 福岡市の生物多様性地域戦略では、食文化などにも触れていたかと思うが、古賀にも郷土料理などはあるか。

- 部 会 員 : “鶏すき”や“らぶ”などの郷土料理があり、農業女性のグループでは郷土料理を後世に引き継いでいくための活動もしている。工業団地と協力し、石瓦煮や“らぶ”などの郷土料理をレトルトにして販売などもしている。
- 部 会 長 : これらは、「Action 3. 生物多様性を活かす-3. 魅力ある地域づくりへの活用」の施策につなげてもいいだろう。“らぶ”がどんな料理かはコラムで説明したらどうか。
- 部 会 員 : 【Action 3. 生物多様性を活かす】
「Action 1. 生物多様性を知る-3. 調査分析・情報共有」にも、「市民参加型の生きもの調査」が記載されている。
- 事 務 局 : 「Action 3. 生物多様性を活かす」では、生物多様性の恵みのひとつである健康や癒し機能を活用していくという意味合いで、施策のひとつにあげている。
- 部 会 長 : 【Action 3. 生物多様性を活かす-2. 環境に配慮した消費行動の推進】
「消費者行動」という部分に違和感がある。「環境の視点に立った消費行動」というと、かなり幅広い内容となるようにも思う。具体的にはどういうことをイメージしているのか。
- 事 務 局 : 持続可能な利用をめざすという視点での消費行動を想定しており、地産地消や福岡県産木材の活用の推進などの施策を考えている。
- オブザーバー : 消費者行動の中で、間接的に生物多様性の保全につながるような施策も含まれていいだろう。例えば、地球温暖化などは生物多様性に密接に関係しているので、地域に密着した施策だけでなく、グローバルな視点もあっていいのではないか。
- 部 会 員 : エコバッグの推進など、市民に身近にできることも含まれた方がいいだろう。
- 部 会 長 : 地球温暖化の減速やエコバッグ推進などの項目は、「Action 3. 生物多様性を活かす」というより「Action 2. 生物多様性を守る」に入るような気がする。
「Action 3. 生物多様性を活かす」は、“生物多様性を資源として活かす”といったイメージが強いのではないか。
- オブザーバー : 「生物多様性を活かす」という表現は、持続可能な利用という意味合いで使用されているものだと考える。「守る」かつ「利用する」という視点で、内容的にはこれでもよいと思う。タイトルはもっと伝わりやすい表現にした方がいいかもしれない。
- 部 会 員 : エコバックの推進などの市民に身近にできる行動については、「Action 2. 生物多様性を守る-3. 環境負荷の低減」に振り分けることもできるかと思うが、地産地消や福岡県産木材の利用などは、「Action 3. 生物多様性を活かす」の方がいいように感じる。
- 部 会 長 : 整理がうまくいかないようであれば、「活かす」という表現を検討した方がいいかもしれない。
- オブザーバー : Action の言葉が短すぎるのかもしれない。「将来にわたって活かす」など、わかりやすい表現もいいだろう。
具体的な施策をどう振り分けていくかというのは、事務局で組み立てをした後で検討してもいいだろう。同じ項目が何度も出てくる場合もあるだろう。

- 部 会 員 : 「環境に配慮した」という表現に違和感があるのかもしれない。「環境を活かした消費行動」など、あえて「活かす」という表現を使用し、地域の生態系の恵みを活かした消費行動を推進していくという整理をしてはどうか。
- オブザーバー : 細かい話になるが、「活かす」は常用漢字ではないので、公文書で使えないだろう。ふりがなをふる、「活かす」を使用するなどの対応が必要かもしれないので、担当部署へ相談してもらいたい。
- 部 会 員 : 【Action 4. 人をつなぐ】
将来像をどうするかによっても、タイトルは変わってくるかもしれない。例えば、候補にあがっていた「環」という表現を使用するのであれば、「人と自然の環をつなぐ」などの表現にするなど、将来像を表現できるようなタイトル、「人と自然」などのキーワードを入れたタイトルにしてはどうか。
- 部 会 員 : 内容的には、Action 1~3 を通して「人をつなぐ」ものになっているように感じる。タイトルは「人をつなぐ」だけではなく、「知る」「守る」「活かす」の一字ずつをとって「知・守・活で人をつなぐ」など、Action 1~3 を通してつないでいるというイメージができるようなものとなればよいと思う。
人と自然は、Action 1~3 の中でつながっていくと思う。
- 部 会 員 : 古賀市では、環境基本計画等でも「環」という表現を多用しているので、「環」という表現を使用した方がいいのではないか。
- 部 会 員 : そうであれば、「環を広げる」などでもいいかもしれない。
- オブザーバー : Action 1~4 の短い表現については、今日の部会ではとりあえずそのままにしておき、施策の構成等ができあがった段階で整理をしていくのがよいだろう。また、Action 同士のつながりを図示してほしい。そうすれば、人と自然のつながりなどもイメージしやすいだろう。
全体を通して、他部局から提案してもらった施策も盛り込まれるといいだろう。
- 部 会 員 : 【Ⅱ. 古賀の将来を描く】
「2. 戦略がめざしていく古賀の将来」という表現は日本語としてはおかしいのではないか。
- 事 務 局 : 修正させていただく。
- 部 会 長 : 将来像については、何かいい案や意見があるか。
「生きもの」という表現は、将来像の中で必須なのか。
- 事 務 局 : 専門部会の前身である古賀市生物調査検討委員会では、「生きもの」という表現が入っていた方がいいのではないかと意見が出ていた。
他の自治体で、「生きもの」という表現は使わずに、「自然」や「いのち」という表現を使用している戦略もある。
- 部 会 員 : 環境基本計画では、「人と自然」という表現があるので、環境基本計画の下位計画である生物多様性地域戦略では、「生きもの」という表現を使用した方がいいように感じる。

- 部 会 長 : 高校生の描く将来像のひとつである「共に生きる」というのは、希少生物もハクビシンなどの害獣もコントロールしながら共に生きていかなければならないという今の時代にも合っているように感じる。
- 部 会 員 : 子どもたちには自然と共に育ってほしいが、古賀も山間部でも自然がなくなってきており、さみしい気持ちもある。
- オブザーバー : 山間部の景観の保全というのは、生物多様性の面からも重要だが、特に子どもたちの体験として非常に重要だろう。自然と接した子どもは倫理観が高くなるとも言われている。
- 部 会 員 : 候補が3つ出ているが、どれが将来像に選ばれてもいいだろう。市民、これまで関わってきている高校生、古賀の将来を考えてほしい人たちなどに選んでもらってはどうか。
高校生の描く将来像のひとつである「変わらないまち」というもの、その状況が想像される。
- 部 会 員 : 県外にいた子どもが古賀に帰ってきたときに、「古賀は変わらない」とうれしそうに言っていたのを思い出す。
- 部 会 長 : 高校生の描く将来像も候補に含めてもう少し整理し、参加した高校生にもう一度意見を聞いてみるのもいいかもしれない。
- 事 務 局 : 3章については、本日いただいたご意見をもとに事務局で素案を作成していく。将来像については、次回の専門部会まで時間があるので、「豊かな自然と共に育つ」「変わらないまち」「共に生きる」など、本日いただいたキーワードも含めて整理し、高校生の投票などによる意見の反映などを検討していきたい。
- 部 会 長 : 少し難しい用語などは、コラムで説明するという案が以前出ていた。今日話題になった郷土料理など、コラムにした方がいいものがあれば、部会員も情報収集をしてご提案いただくようお願いしたい。

4. その他

- ・ 第3回古賀市環境審議会生物多様性専門部会は平成30年11月頃を予定しているため、改めて日程調整をさせていただく。

5. 閉会
